

社会調査教育の概要

An Overview of the Education of Social Research

小内 純子

1. はじめに

社会調査教育は、学部設立時から今日まで社会情報学部のカリキュラムの柱の1つに位置づけられてきた。それは、自らの問題意識に基づいてデータを収集し、整理・分析して、その成果を発信するという学習過程が、社会情報学部の教育目標と共振する部分が大きかったことに基づく。以下、本稿では、社会調査教育の変遷を振り返った上で、2001年度カリキュラムから導入した社会調査士資格についてふれる。

なお、開設年度から現在に至る社会調査教育の実際については、小内が1991～2000年度までの入学生に対する教育について、そして石井と高田がそれ以降の入学生に対する教育について振り返った論稿が小特集「2. 社会調査教育を振り返って」に集録されている。

2. 社会調査教育の変遷

本学部の社会調査教育の歩みを、カリキュラムにおけるその位置づけの変化からみると以下の3つの時期に区分できる。ここでの時期区分は入学年度で示すことにする。

第1期は、1991～1995年度で、学部創設からの4年間である。この時期は、2年次の必修科目として社会情報調査論、3年次の選択必修科目として社会情報調査実習Ⅰ・Ⅱが開講された。

第2期は1996～2000年度である。1996年

度のカリキュラム改訂で、社会情報調査論と同様に、社会情報調査実習Ⅰ・Ⅱも指定必修となり、200人前後の全学生が調査実習を履修することになる。社会系の科目と情報系の科目をつなぐ役割を担う科目として調査実習が重視されたことによる。ただし、必修化に伴う弊害も指摘されるようになり、次のカリキュラム改訂で見直しが行われ、必修化は5年で終了した。

第3期は、2001年度から現在までである。2001年度に大幅なカリキュラム改訂が行われ、専門科目のデータサイエンス群とフィールドワーク群を構成する科目として、社会調査関連科目は大幅に増加する。データサイエンス群とフィールドワーク群の共通科目として1年次に「資料収集法」と「社会調査の技法と実際」が配置され、その上にデータサイエンス群では、2年次に「データ解析」「データ解析演習」「量的調査方法論」「量的調査基礎演習」、3年次に「量的調査設計」「量的調査演習」、フィールドワーク群では、2年次に「質的調査方法論」「質的調査基礎演習」、3年次に「質的調査設計」「質的調査演習」が配置された。いずれも2単位の選択必修科目である。また、「量的調査方法論」と「量的調査設計」、「量的調査基礎演習」と「量的調査演習」、「質的調査方法論」と「質的調査設計」、「質的調査基礎演習」と「質的調査演習」はいずれも積み上げ科目と位置づけられることになる。

3. 社会調査士資格について

2001年度のカリキュラム改訂による社会調査関連科目の増加は、これを機に、「社会調査士」という資格を導入したことと関係している。当時、「社会調査士」を公的機関による認定資格にすることを目指す動きが関西のいくつかの大学で試みられており、その第一歩として学部が認定する資格を創設する動きが起こっていた。その動きに連動するかたちで本学部でも、カリキュラム改訂に合わせて、学部として「社会調査士」を認定するためのカリキュラムを整備した。

当時のカリキュラム検討委員会最終答申によれば、「社会調査士」資格導入の理由として以下の3点があげられている（大國ほか、2001：147-148）。

①本学部学生が、社会調査等をとおして社会学を実践的に学び、資格取得を目指すことは学生の関心および教育的効果を高める

②さまざまな組織で調査等に基づく企画・政策立案の必要性が認識され、そのような問題発見、解決能力を身につけた人材が社会的に求められている。

③日本の社会系学部で社会学研究者に加え、データ解析、情報系メンバーが揃っている中で社会調査、データ解析およびその実践を学ぶ環境は極めて限られている。本学部はそのような数少ない学部の一つであり、その環境を生かすべきである。

表1は、当初、認定のために修得することを義務づけた科目一覧である。先にあげたデータサイエンス群とフィールドワーク群の他に、データ解析基礎、データ解析基礎演習、データベース基礎、データベース基礎演習、卒業論文、社会情報学群から4科目以上、現在社会論群から4科目以上、計46単位以上の修得を義務づけており、現在と比較して非常に多くの単位の修得が必要であった。これは、①資格取得を目指して社会系の科目を体系的に学ぶことを重視したこと、②質的調査と量

表1 学部独自の「社会調査士資格」取得のための必要単位

科目名・科目群	単位	区分
資料収集法	2	指定必修
社会調査の技法と実際	2	指定必修
量的調査方法論	2	指定必修
量的調査基礎演習	2	指定必修
データ解析	2	指定必修
データ解析演習	2	指定必修
質的調査方法論	2	指定必修
質的調査基礎演習	2	指定必修
データベース基礎	2	指定必修
データベース基礎演習	2	指定必修
卒業論文（調査論文）	6	指定必修
量的調査設計及び量的調査演習*	4	選択必修
質的調査設計及び質的調査実習*	4	選択必修
社会情報学群（4科目）	8	選択必修
現代社会論群（4科目）	8	選択必修
合計	46単位以上	

*いずれか一方4単位選択必修

表2 一般社団法人「社会調査協会」による認定科目一覧

区分	授業科目名	単位	要件
A	社会調査の技法と実際	2	必修
B	質的調査方法論	2	必修
	量的調査方法論	2	必修
C	データ解析基礎I	2	必修
D	データ解析基礎II	2	必修
E	データ解析I	2	選択
F	質的調査基礎演習	2	必修
G	質的調査設計・質的調査実習	4	選択必修
	量的調査設計・量的調査演習	4	選択必修

*区分は社会調査協会で指定している科目の区分を表している。

的調査をバランスよく学べるようにしたことなどが影響している。

この「社会調査士」資格は、その後2003年11月に日本社会学会、日本教育社会学会、日本行動計量学会という3つの学会により設立された「社会調査士資格認定機構」が認定する資格に、さらに2008年12月に一般社団法

人「社会調査協会」が認定する資格となり現在に至っている。社会調査協会では、社会調査資格取得のための「標準カリキュラム」を定めており、それに合わせて本学部でも修得すべき科目を変更してきており、現在では表2のようになっている。調査科目に特化したカリキュラムで、認定に必要な最低単位数は14単位と大幅に減少している。なお、これま

で100名に近い学生が社会調査士資格を取得している。

参考文献

大國充彦・小内純子・佐藤和洋・千葉正喜・長田博泰(2001)「社会情報学部新カリキュラムについて——カリキュラム検討委員会最終答申——」『社会情報』Vol.10, No.2: 125-155.